婦人科疾患（子宮がん）のお話し

2月14日（土）総合センターにて楠林秀紀先生（楠林医院長）をお招きして講演会を実施しました。そのなかで子宮がんを中心にお伝えします。

子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんがあります。どちらも子宮にできるがんですが、組織を構成する細胞の種類が異なります。

子宮頸がん

子宮の入り口近くにできるがんです。

日本人に多く、ウイルス感染が主な原因といわれています。初期の症状はほとんどなく、30～40歳代の発症が多く年々若年化しています。予防には、検診とワクチン接種が有効といわれていますが、現在のところ、ワクチンの積極的な勧奨はされていませんので検診を受けることをお勧めします。

子宮体がん

子宮の奥のほうにできるがんです。

50歳以降に多く、初期には不正性器出血がみられることが多いといわれています。罹患の危険因子として肥満・高血圧・糖尿病があげられます。閉経後の女性は、女性ホルモンの減少により腹囲が増大し肥満傾向になる方もおられます。予防には、自分の体の変化に気をつけて不正性器出血を発見することと、症状がなくても子宮頸がん検診の際に医師と相談して子宮体がんの検査を受ける（有料）ことが重要です。

子宮頸がん検診

湯浅町では、集団検診車（バス）による検診と、医療機関での個別検診があります。集団検診では、同じ日に他の検診も受けられるメリットがあります。医療機関での個別検診では、子宮頸がん検診と同時に、別途有料ですが子宮体がんの検査や経膣超音波検査（エコー）が実施できるため、子宮筋腫や卵巣腫瘍等の婦人科疾患の早期発見も可能です。

子宮筋腫

女性の二人に一人にはあるといわれています。閉経後は大きくなりませんが、それまでは、筋腫が大きくならないことを確認することが大切です。大きくなる筋腫の中にはまれに悪性のものもあります。

検診を受けて子宮頸がんを予防しましょう。

＊子宮体がん検診について

平成27年4月～無料の子宮体がん検診の実施がなくなり、医療として子宮体がん検査を受けていただくことになりましたので、自己負担が発生します。

個別検診実施医療機関

有田郡市内の婦人科医院

診察時間等は各医院にお問い合わせください。